



東証一部上場 証券コード：3666
株式会社テクノスジャパン

ラジオNIKKEIオンラインIRセミナー

2021年6月26日

代表取締役 吉岡 隆

LEAD THE CONNECTED SOCIETY TO THE FUTURE

～ つながる未来を切り拓く ～

1. テクノスジャパンのご紹介

◆「テクノスジャパン」の概要

東証一部上場 証券コード：3666
株式会社テクノスジャパン

東証一部上場 証券コード：3666



会社名

株式会社テクノスジャパン

【日本 東京都、大阪府、愛知県、福岡県】

代表取締役社長 吉岡 隆

設立

1994年

連結子会社

沖縄テクノス株式会社
Tecnos Global Company of America, Inc.
Lirik, Inc.
Lirik Software Services Canada Ltd.
Lirik Infotech Private Limited.

【日本 沖縄県】
【米国 カリフォルニア州】
【米国 カリフォルニア州】
【カナダ ブリティッシュコロンビア州】
【インド ハリヤナ州】

事業

企業向け経営・業務システムにおけるDX推進事業

- ・ 企業向けDX（デジタルトランスフォーメーション）のコンサルティング
- ・ 基幹業務システム（**ERP**）・顧客管理システム（**CRM**）・DX協創プラットフォームサービス（**CBP**）を組み合わせたビジネスコンサルティング
- ・ システムグランドデザイン、要件定義、設計、開発、保守に至る一連のシステムサービス

従業員数

単体358名 連結558名（※2021年4月1日現在）

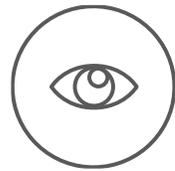
◆「テクノスジャパン」のMVVと沿革

東証一部上場 証券コード：3666
株式会社テクノスジャパン



MISSION

企業・人・データをつなぎ
社会の発展に貢献する



VISION

LEAD THE CONNECTED
SOCIETY TO THE FUTURE

～ つながる未来を切り拓く ～



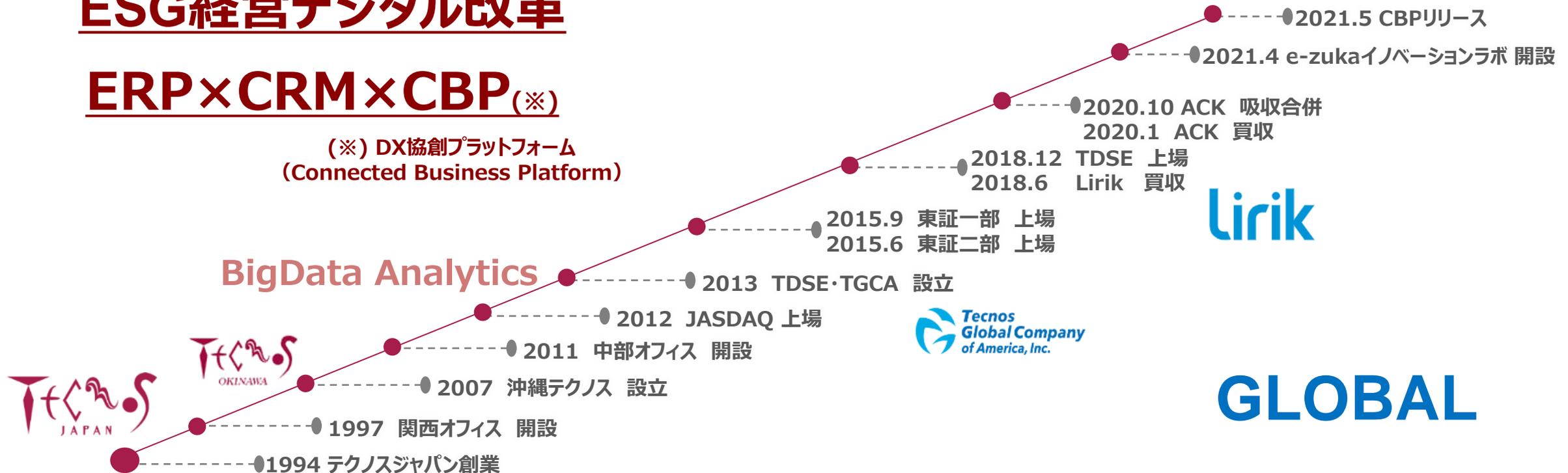
VALUES

- ・顧客志向・グローバル志向
- ・個性融合のチームワーク
- ・創造、変革、改善

ESG経営デジタル改革

ERP×CRM×CBP(※)

(※) DX協創プラットフォーム
(Connected Business Platform)



◆「テクノスジャパン」のグループ企業ご紹介

東証一部上場 証券コード：3666
株式会社テクノスジャパン

会社名 株式会社テクノスジャパン

連結子会社 沖縄テクノス株式会社
Tecnos Global Company of America, Inc.
Lirik, Inc.
Lirik Software Services Canada Ltd.
Lirik Infotech Private Limited.

【日本 東京都、大阪府、愛知県】

【日本 沖縄県】

【米国 カリフォルニア州】

【米国 カリフォルニア州】

【カナダ ブリティッシュコロンビア州】

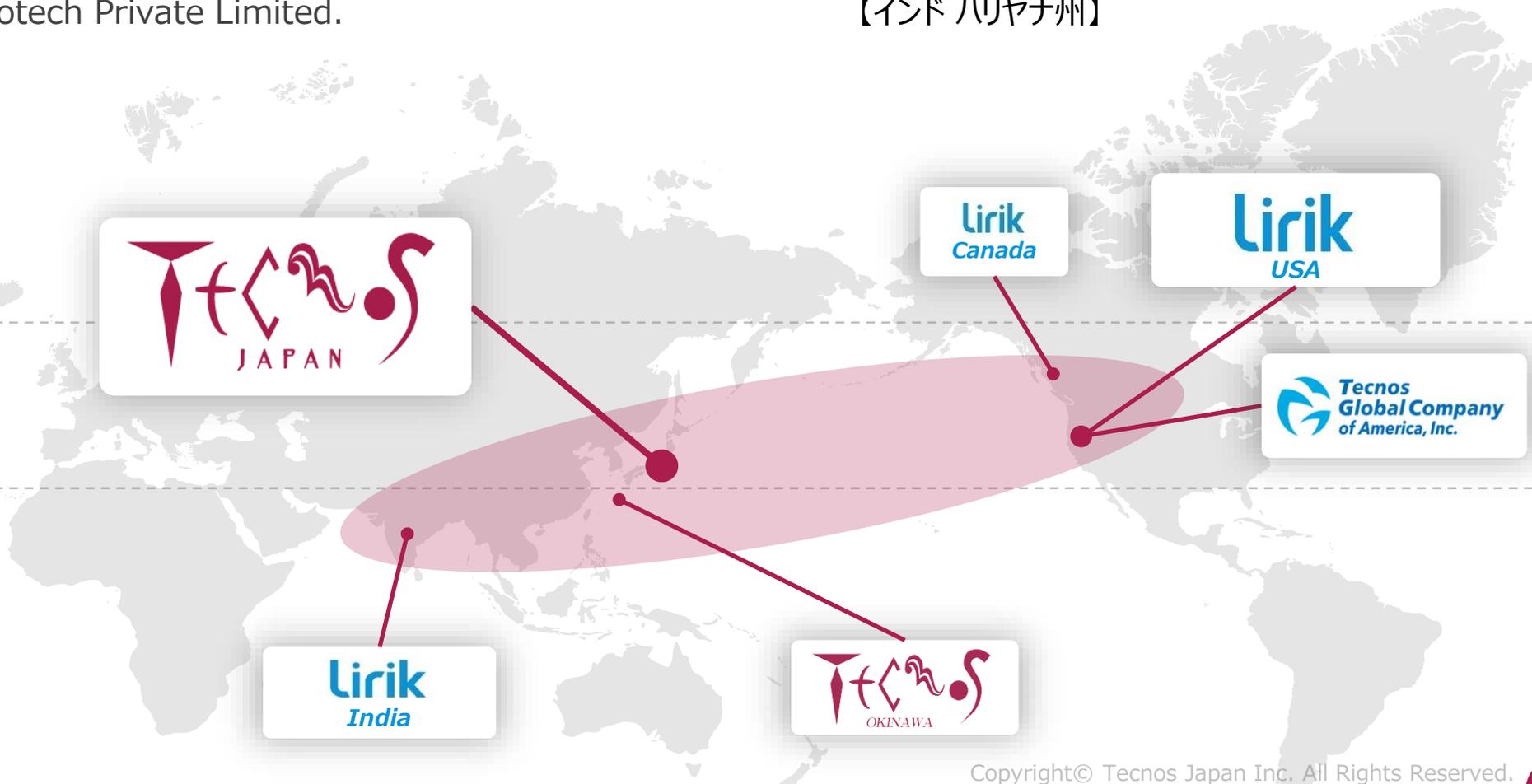
【インド ハリヤナ州】

企業向け経営・業務システム
におけるDX推進事業
(デジタルトランスフォーメーション)

ERP×CRM×CBP

新技術発掘

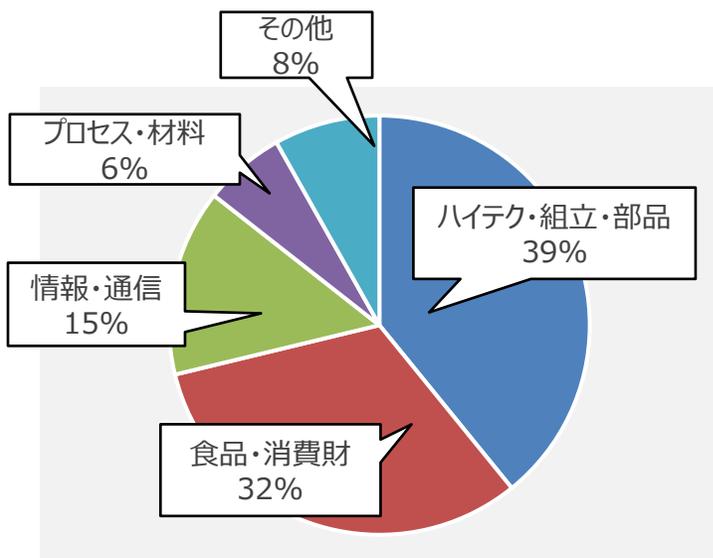
ニアショア・オフショア事業
(開発センター)



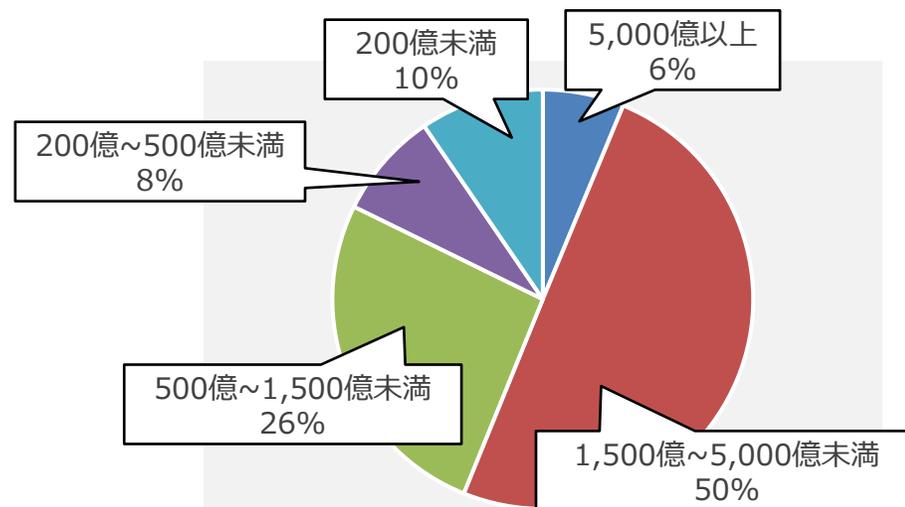
2. テクノスジャパンの事業内容

大手製造業のお客さまを中心にビジネスを展開

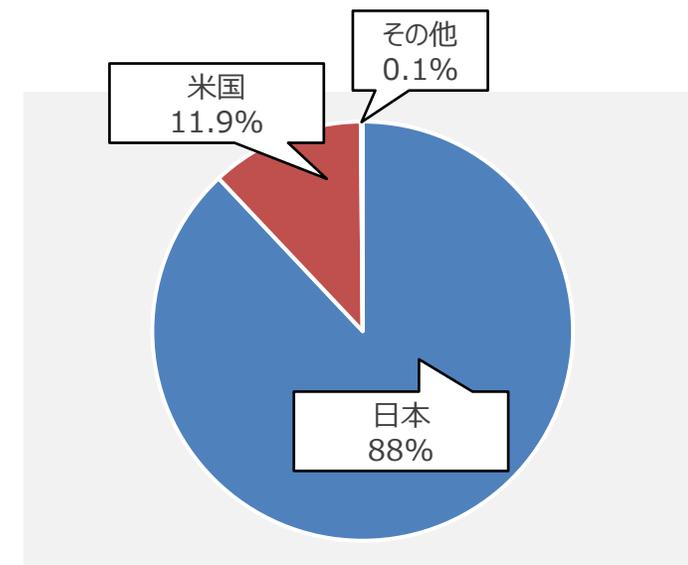
業種別売上高構成



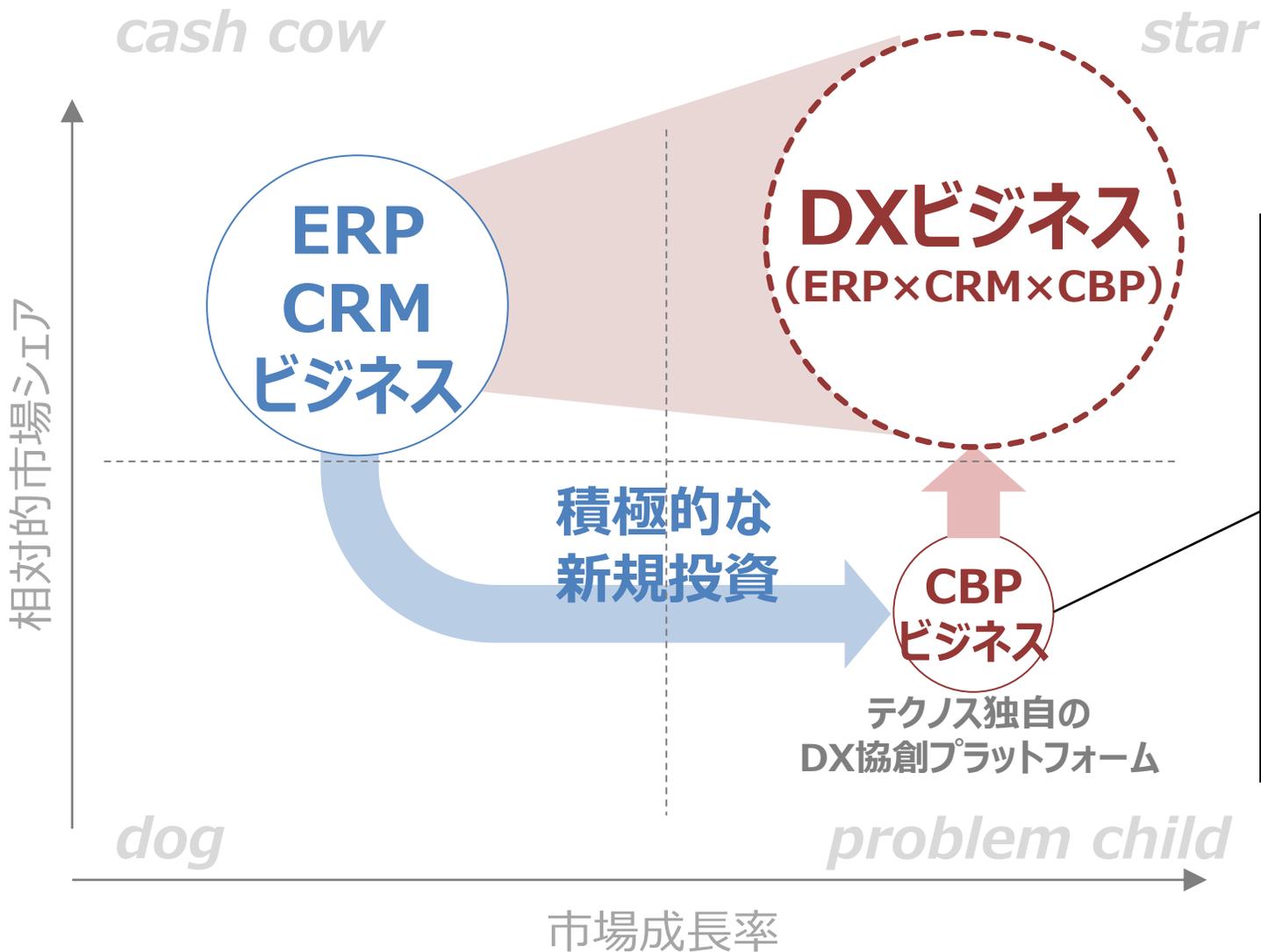
サービス先規模別売上高構成



サービス先地域別売上高構成



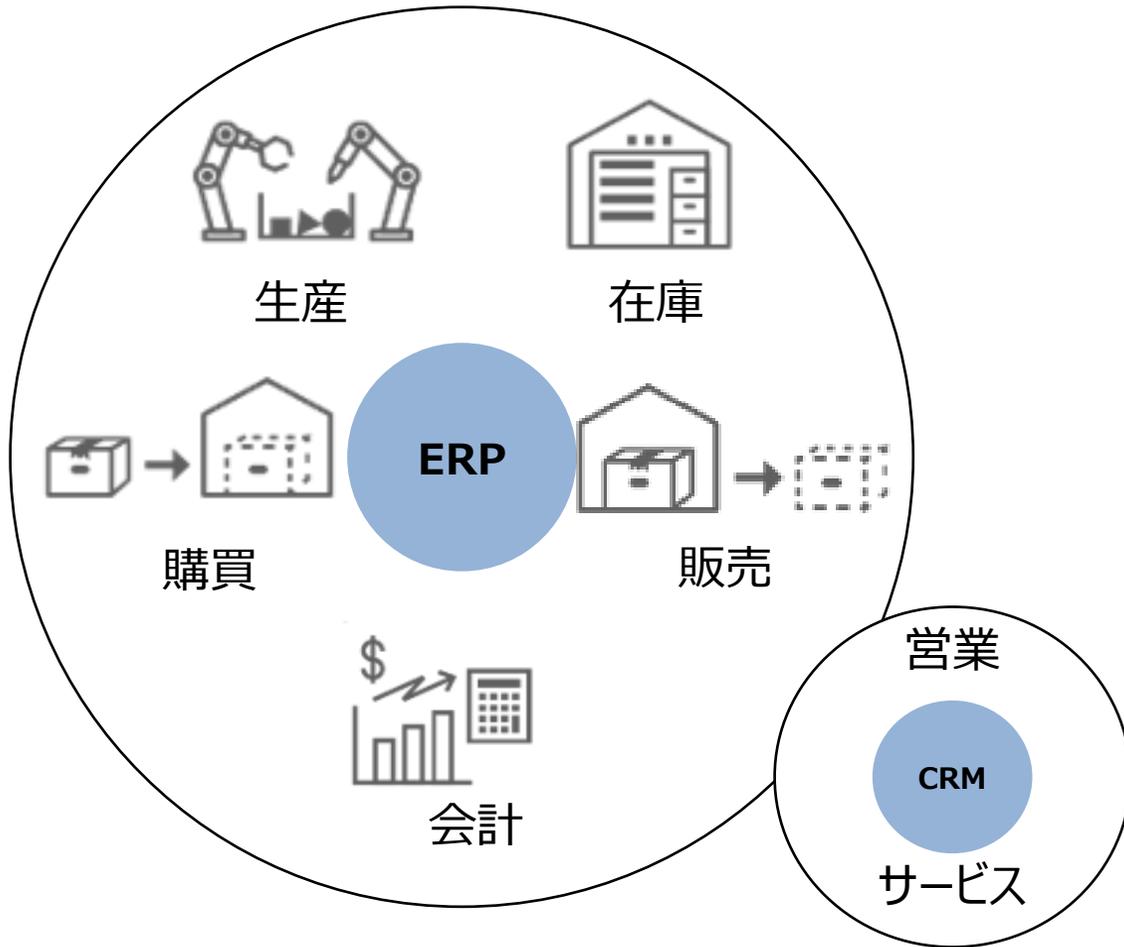
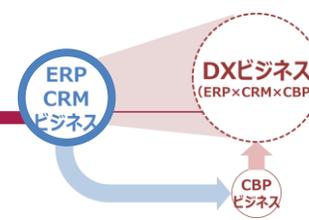
$$DX = ERP \times CRM \times CBP$$



テクノスジャパン、DX協創プラットフォームCBP上に「注文決済サービス (SaaS)」を提供開始 — 企業競争力の強化、ESG経営、持続可能な社会の実現へ貢献

2021.05.19 **PRESS**

DXでつながる未来を切り拓く株式会社テクノスジャパン（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：吉岡隆、以下「テクノスジャパン」、証券コード3666）は、DX協創プラットフォーム「Connected Business Platform（略称：CBP）」上で「注文決済サービス (SaaS：クラウドサービス)」を2021年5月に提供開始しました。



ERP

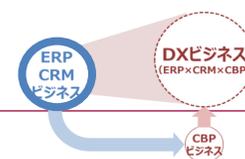
(Enterprise Resource Planning)
企業の基幹業務システム

- 企業の様々な「リソース（人・モノ・カネ）」で、「生産・購買・在庫・販売・会計」といった企業の一連の業務を「効率的に計画・実行」するシステム

CRM

(Customer Relationship Management)
顧客管理システム

- 顧客満足度と顧客ロイヤルティの向上を通して、売上の拡大と収益性の向上を目指すシステム
- 営業・サービスパーソン・コールセンター等の業務を支えるシステム



堅調な成長が期待されるERP・CRMビジネス市場

- お客様の投資意欲は堅調で、ERP・CRMビジネス市場は右肩上がりの予測
- いわゆる「2025/27年問題」によるERP再構築ニーズやクラウド型へので中長期的・安定的な需要増

図. ERP市場規模推移および予測：提供形態別
(2018～2024年度予測)

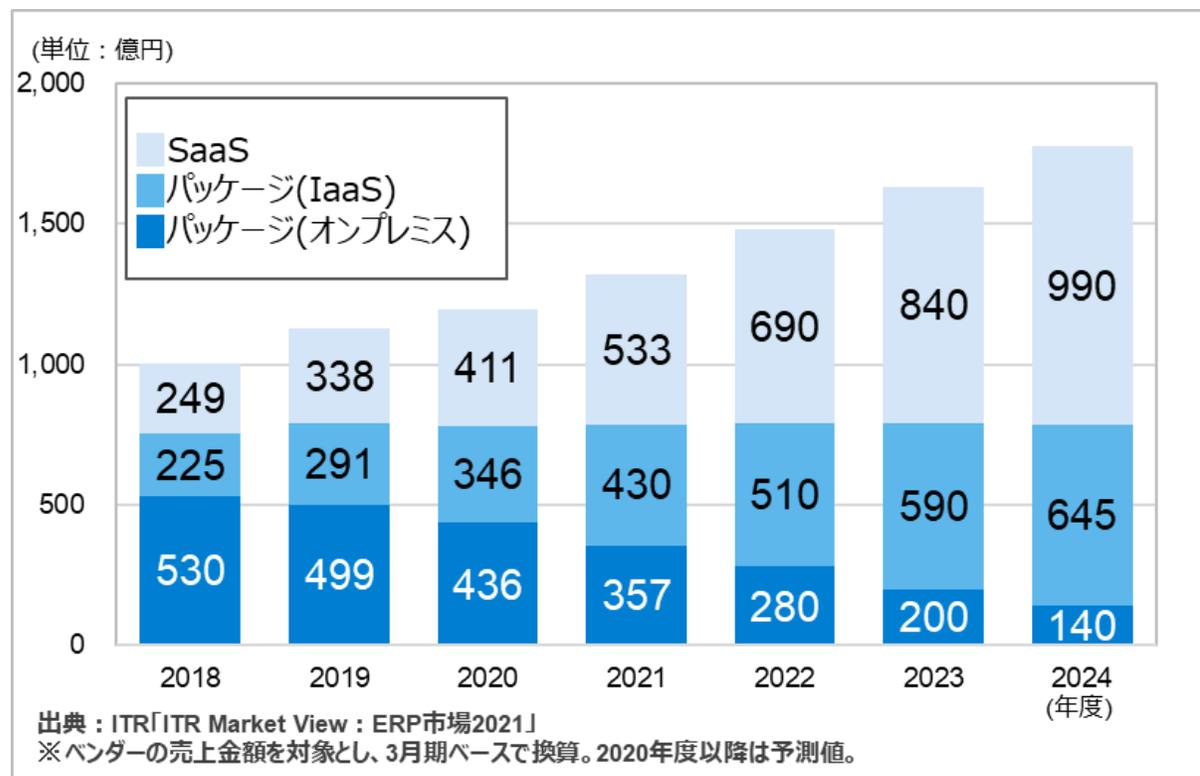
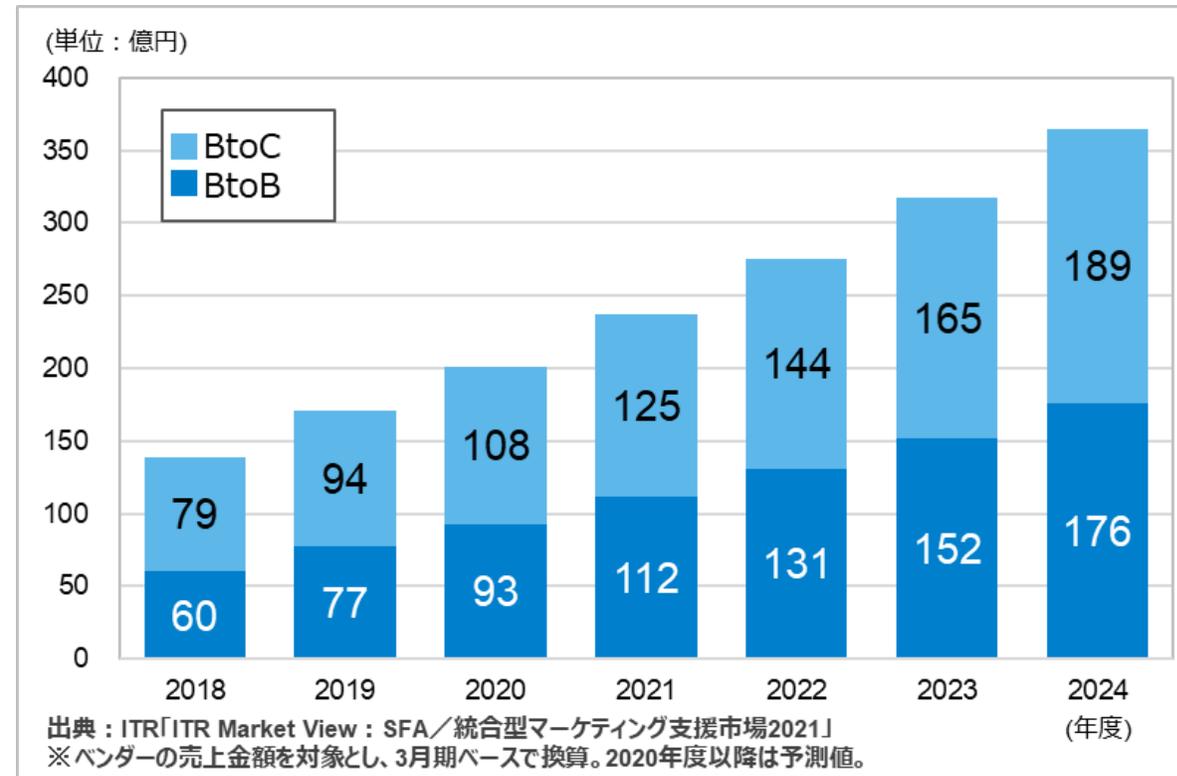
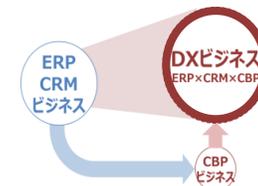


図. 統合型マーケティング支援市場規模推移および予測：BtoB、BtoC別
(2018～2024年度予測)

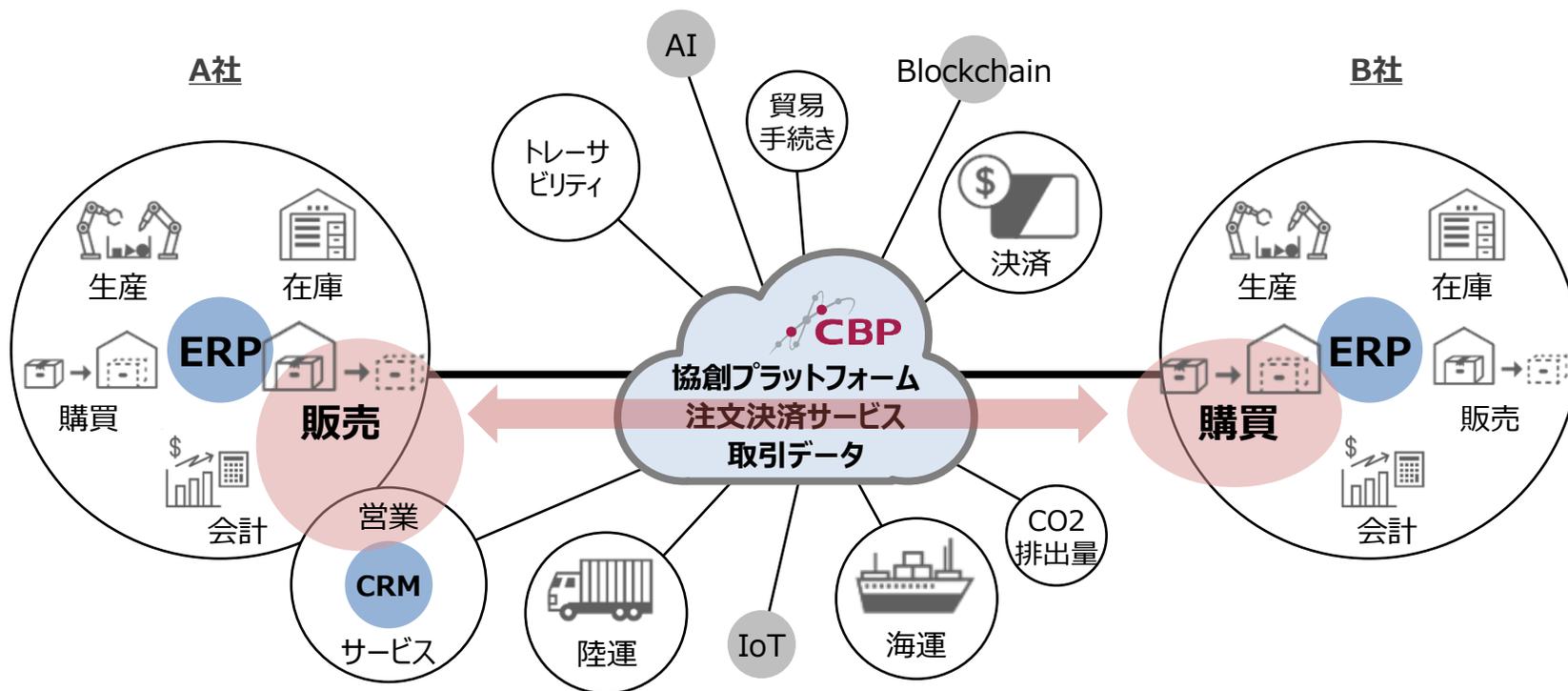


経営・業務デジタル改革：DX=ERP×CRM×CBP



ERP・CRMのデータに加え、CBP取引データを起点とした「エコシステム」で、ESG経営・企業競争力の強化・持続可能な社会への貢献を目指す

- デジタルを活用して、
- ✓ 廃棄ロス削減
 - ✓ 環境負荷軽減
 - ✓ 気候変動緩和



取引先との「取引業務高度化」・「DCM(需要管理)/SCM(供給管理)高度化」

企業間の商流・物流業務の効率化の実現に向けて

- 2021年4月から九州工業大学と「商流・物流の運用知識体系化とその応用に関する研究」をテーマに産学共同研究を開始
- テクノスジャパンe-ZUKAイノベーションラボとして、福岡県飯塚市新産業創出支援センター（e-ZUKAトライバレーセンター）内に研究室の機能を備えたサテライトオフィスを開設



記者会見（2021年4月15日）

株式会社テクノスジャパン・九州工業大学が産学共同研究スタート ―飯塚市にサテライトオフィス（研究室）を開設―

2021.04.15 **PRESS**

DXでつながる未来を切り拓く株式会社テクノスジャパン（本社：東京都新宿区、代表取締役社長：吉岡隆、以下「テクノスジャパン」、証券コード3666）と九州工業大学（学長：尾家祐二）情報工学部は、令和3年4月から「商流・物流の運用知識体系化とその応用に関する研究」をテーマに知識のAI化に関する産学共同研究を開始します。また、本共同研究の開始に伴い、テクノスジャパンe-ZUKAイノベーションラボとして、飯塚市新産業創出支援センター（e-ZUKAトライバレーセンター）内に研究室の機能を備えたサテライトオフィスを開設します。



飯塚市新産業創出支援センター（e-ZUKAトライバレーセンター）

IT市場への影響

IT市場全般の環境

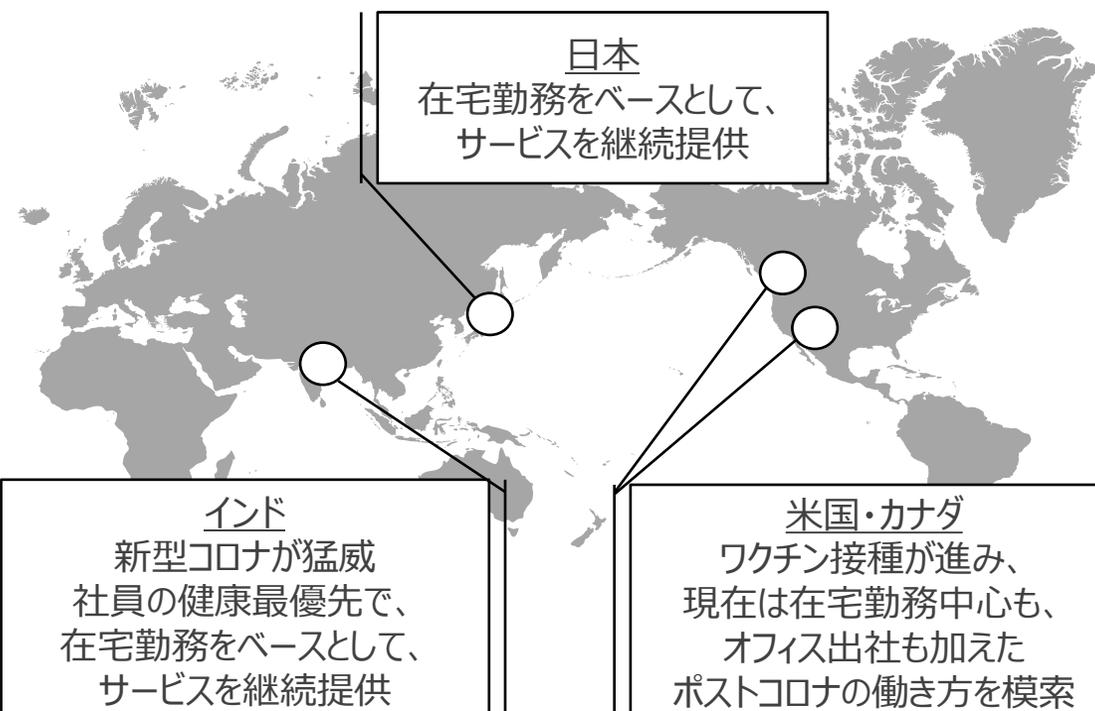
- ✓ 「DXレポート」(2025年の崖) - 企業の様々なIT課題
- ✓ DX (デジタルトランスフォーメーション) 推進の必要性
- ✓ 新型コロナウイルス対策としてのデジタル需要
- ✓ 在宅勤務活用促進によるクラウド化の加速
- ✓ コロナ禍による経営悪化業界企業によるIT投資抑制

当社を取り巻く環境

- ✓ ERP・CRMは堅調・好調
- ✓ いわゆる「2025/27年問題」によるERP再構築ニーズやクラウド型への移行ニーズで中長期的・安定的な需要増
- ✓ CBPのクラウドサービス市場投入により、ERP・CRMビジネスとの相乗効果を見込む

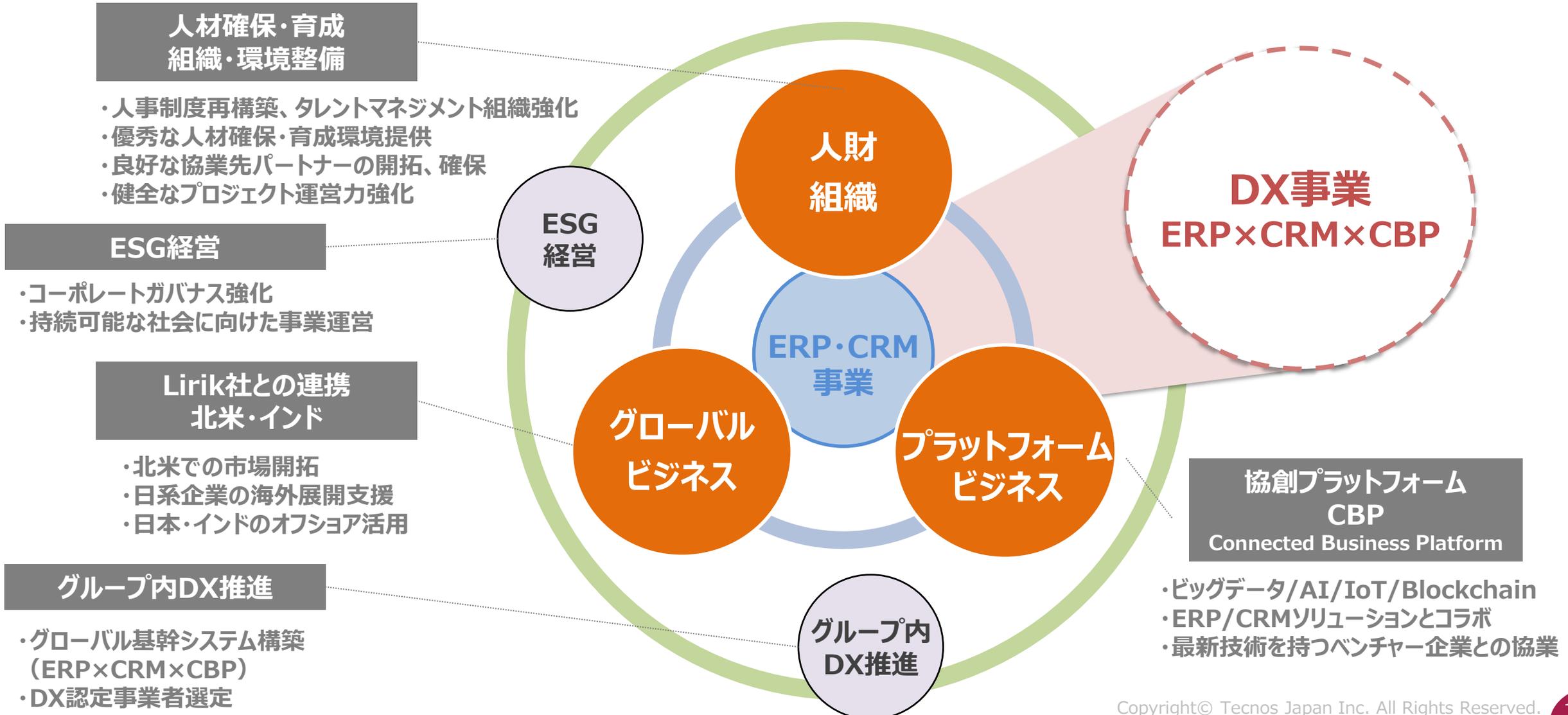
当社グループの対応

現在は、グループ全体で在宅勤務を推奨・推進



ポストコロナの働き方として、
オフィス出社と在宅勤務のバランスのとれた働き方を模索

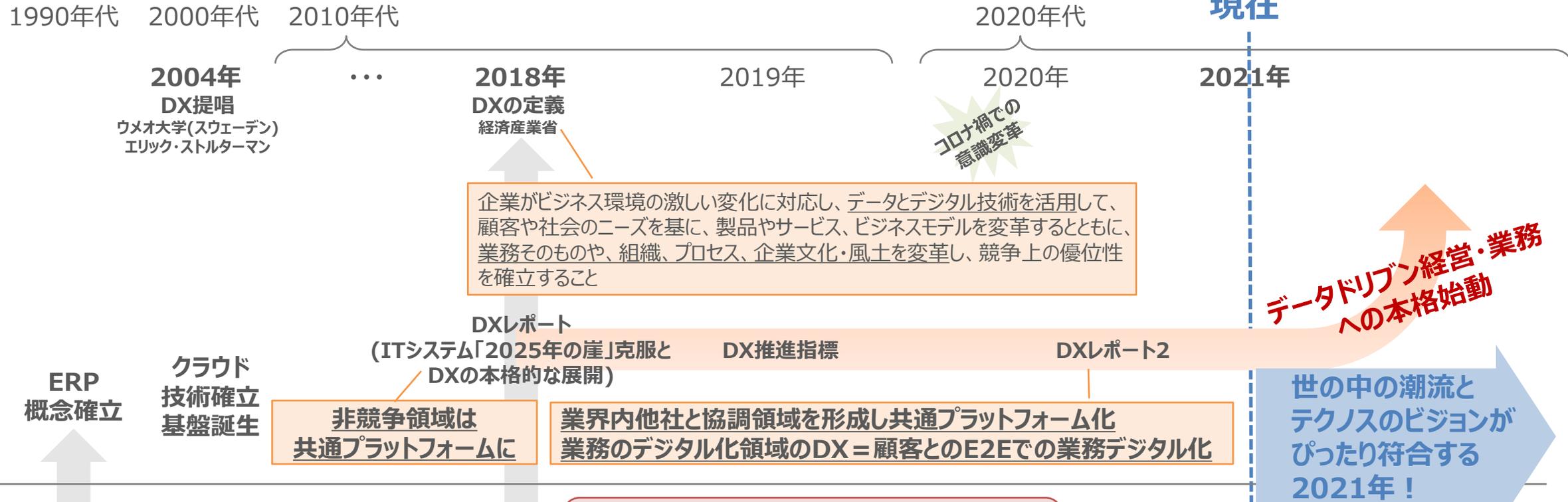
次世代DX事業の実現に向けた成長エンジン



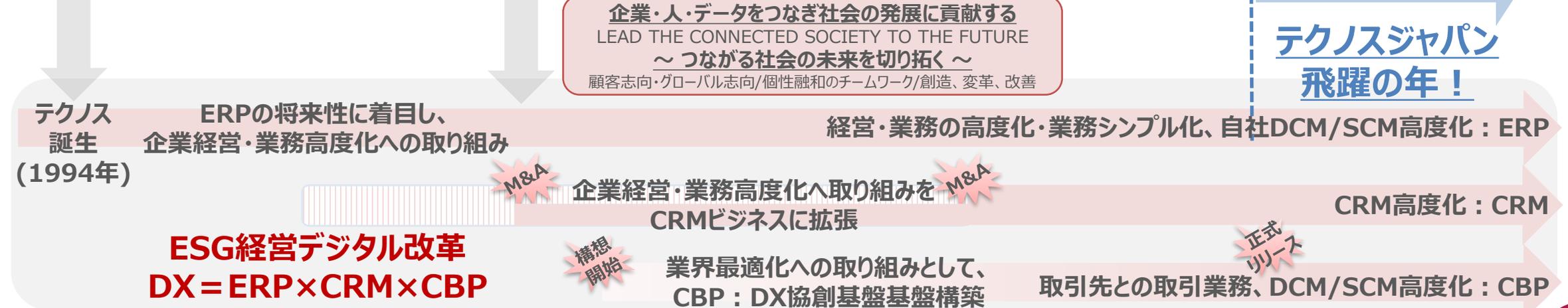
◆「DXレポート」と「テクノスジャパンの取組み」

東証一部上場 証券コード：3666
株式会社テクノスジャパン

国内のIT&DX化
の流れ



テクノスジャパン
の沿革



3. テクノスジャパン2020年度業績

◆2020年度（2021年3月期）連結損益計算書

東証一部上場 証券コード：3666
株式会社テクノスジャパン

連結（単位：百万円）

	2020年3月期	2021年3月期	前年度比	
			増減額	増減率
売上高	7,677	8,197	+520	+6.8%
売上総利益 (売上総利益率)	1,596 20.8%	2,433 29.7%	+837	+52.4%
営業利益 (営業利益率)	282 3.7%	924 11.3%	+642	+227.2%
経常利益 (経常利益率)	307 4.0%	958 11.7%	+651	+211.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	130	661	+531	+407.1%
1株当たり 当期純利益（円）	6.61	33.52	+26.91	+407.1%
自己資本利益率 ROE（%）	2.7	14.2	+11.5	—
配当額（円）	12	12	0	—
EBITDA	386	1,043	+657	+170.2%

4. テクノスジャパン2021年度業績見通

2022年3月期は引き続き成長を見込む（経常利益10億円台に）

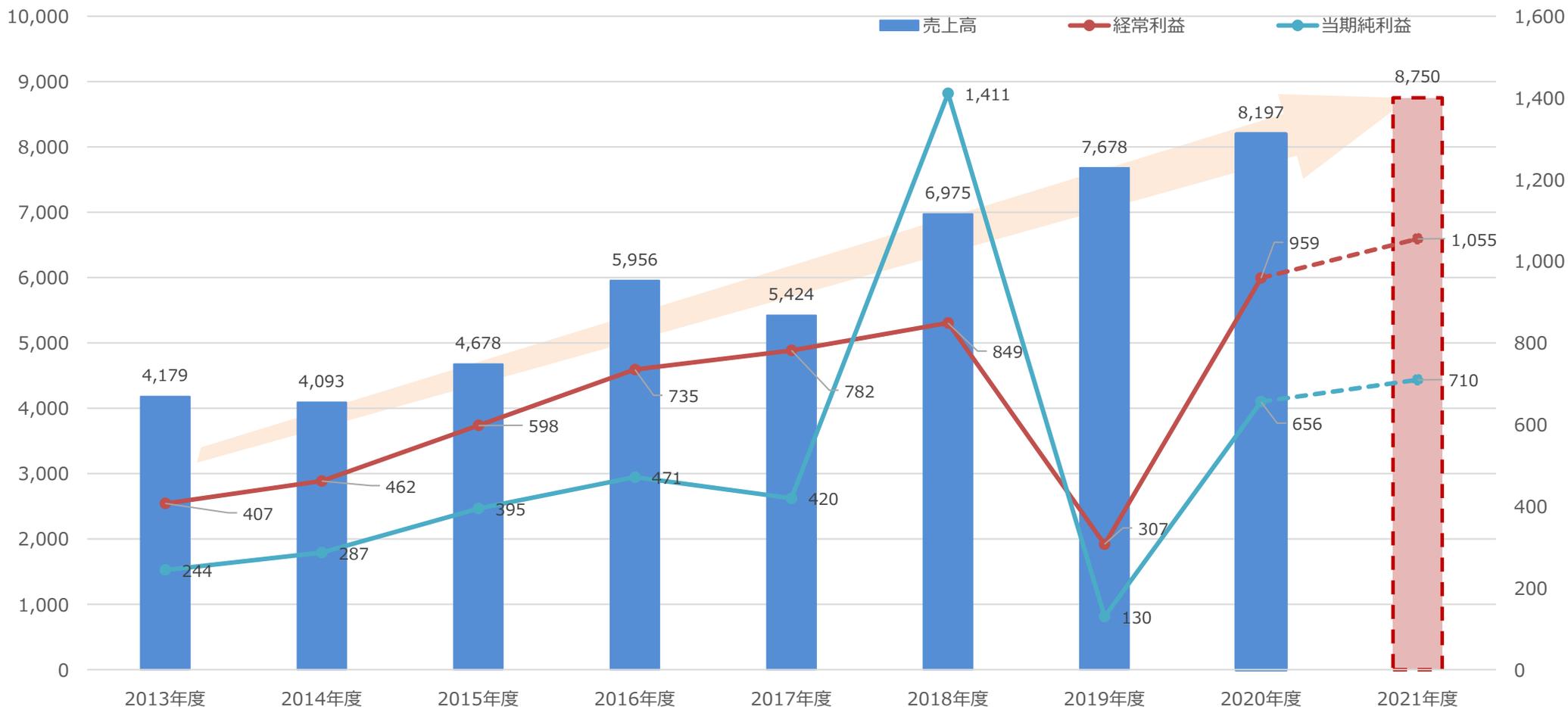
連結（単位：百万円）

	2021年3月期	2022年3月期	前年度比	
			増減額	増減率(%)
売上高	8,197	8,750	+553	+6.7%
営業利益 (営業利益率)	924 11.3%	1,020 11.7%	+96	+10.4%
経常利益 (経常利益率)	958 11.7%	1,055 12.1%	+96	+10.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	661	710	+49	+7.4%
1株当たり 当期純利益 (円)	33.52	36.00	+2.48	+7.4%
自己資本利益率 ROE (%)	14.2	14.2	0	—
配当額 (円)	12	13	+1	—
EBITDA	1,043	1,139	+96	+9.2%

売上高、経常利益、当期純利益ともに持続的に成長

連結（単位：百万円）

連結（単位：百万円）

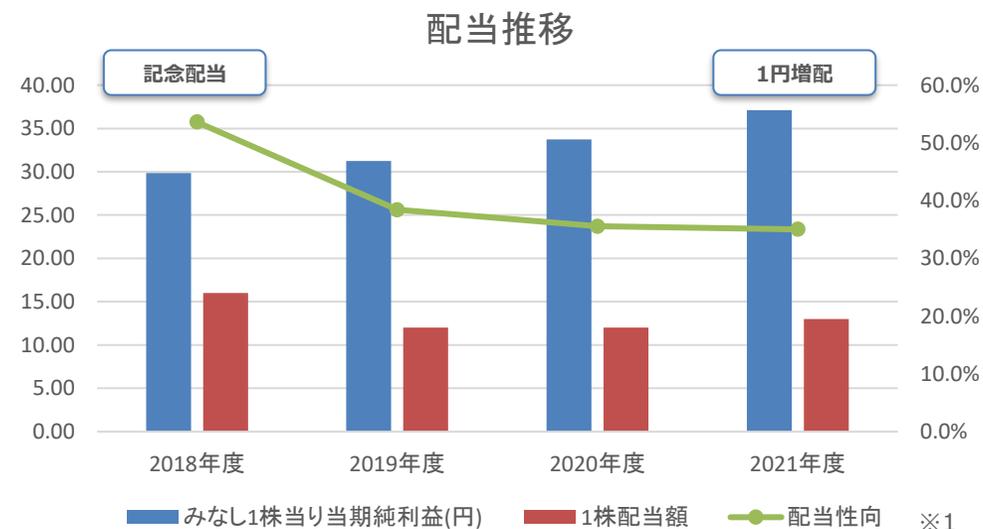


2022年3月期の配当は13円（1円増配）とする

三方バランスのとれた利益還元施策



株主還元施策実績と予想



※1 みなし配当原資に対する配当性向

配当額については、連結経常利益を基準に実効税率を加味した「みなし配当原資」（みなし純利益）に対し 35%以上を目安に配当として還元していく方針としています。

【2022年3月期の配当予想】 13円 （「みなし配当原資」に対する配当性向:35.0%）
2022年3月期は経常利益の成長を鑑み1円増配いたします。

5. 質疑応答

東証一部上場 証券コード：3666
株式会社テクノスジャパン



LEAD THE CONNECTED SOCIETY TO THE FUTURE
～ つながる未来を切り拓く ～